

## 『金曜日の朝、どうかシッポを振らないでくれ ～保健所の現場から』

私は、金曜日の朝が辛いです。

数日間なれど、飼い主からの連絡を待ちながら、飼い主の代わりに世話をしています。

飼い主を捜したり、餌を与え、便の後片付けをし、日光浴をさせ、頭をなでてやり、限られた時間で出来るだけの情を注いでいます。

情を注げば可愛く思えてきます。

金曜日は殺処分（一部譲渡）するために大分へ犬を運びます。

情をかけた子（犬）を送り出すときの、我々職員の心境を考えてみて下さい。

金曜日の朝、私の心は、こうです。

シッポを振りながら私を見ないでくれ！

「餌の時間かな？」と疑いのない目で見ないでくれ！

遊ぼうってすり寄らないでくれ！

子（犬）は、殺処分したくない。

憎しみで牙をむいて吠えてくれ。

……その方が、私の心は痛まずにすむから。



今から殺処分されるのに……親しそうな目で見ないでくれ！

最後の最後まで人間を信じている……「俺たちは、お前達を殺処分するんだぞ！」

……シッポを振らないでくれ。

私達職員は、胸が締め付けられます。

その時が金曜日です。

「憎しみで吠えられた方が気分が楽になる」

この心境、分かりますか？

保健所に殺処分をゆだねる前に、愛犬との楽しかった時期を思い出して下さい。

愛犬は、最後の最後まであなたを信じているはずです。

愛犬が粗相したとしても、多くの場合、飼い主がしつつけを怠ったケースが多く、責任を愛犬になすりつけないで下さい。

犬についての正しい勉強を怠った自分（飼い主）を見つめ直して下さい。

元 大分県北部保健所 衛生課 生活衛生環境班

イラスト：獣医師 故）工藤 毅 文：獣医師 渡辺 徹

